

平成24年度 校内研修について

1 研究主題

「思考力・判断力・表現力を育成する授業の工夫」

2 今年度の課題

言語活動の充実を視点とした学習課題と小グループの活用

3 研究主題設定の理由

平成21、22年度は、「一人一人の学びを保障する」という主題のもと、基礎的基本的な学習内容の習得を目指した授業改善に取り組んできた。平成23年度は、習得した知識や技能を活用した学習に取り組み、すべての生徒の思考力・判断力・表現力等の育成を目指した。これらの力の育成には、言語活動の充実を視点とした学習課題と良好な人間関係を基盤とした小グループの活用が有効であると考える。そこで本年度も昨年度の主題を引き継ぎ、これまでの研究をさらに深めたい。

4 研究の経緯

<平成21年度>

「一人一人の学びを保障する授業形態の探究」を課題として、①生徒の学力差を克服する授業、②学びのある授業、③専門家として成長し合える教師集団の3つに視点をあて、その方策を考えた。具体策として、①「コの字型机配置」、②「4人グループ学習」、③全教員年1回の授業公開（ビデオによる「学年授業検討会」）を実践した。

<平成22年度>

「学びの質を高める授業形態の探究」を課題として、「コの字型机配置」や「4人グループ学習」を中心に授業形態を探究し、深めた。また、基礎学力の定着のために、1学期に学習週間を設定するとともに漢字・単語・計算コンテスト等を学年ごとに実施した。

<平成23年度>

「言語活動の充実を視点とした学習課題と小グループの活用」を課題として、江戸川区教育課題実践推進校として、「コの字型机配置」や「4人グループ学習」を中心に研究を継続した。また、「学力アップ週間」を設定し、個の学力の伸長を目指した。

5 実践の内容

(1) ビデオによる「学年授業検討会」

- ①全員1回は授業公開をする。ただし、全体研修会の授業者は、学年授業検討会の授業者を免除する。
- ②学年の教員数に差があるので、一人1回授業公開の条件を満たせば、下記の「学年授業検討会」の時間に通常の学年会を実施してもかまわない。ただし、3学年は、秋に進路に関する学年会が必要になるため、それを見通して実施していくようにする。
- ③指導案はなくてもよい。
- ④授業は教科を中心とするが、場合によっては他の領域でもよい。
- ⑤「活用型の学習」のための学習課題を設定し、「4人グループ学習」を取り入れた授業の展開を工夫する。
- ⑥「学年授業検討会」で意見交流をすることにより、各自が自分の授業を振り返り、教師としての資質を高める。そのことによって、教師としてお互いが学び合う「同僚性」を校内に構築する。
- ⑦「学年授業検討会」後、意見交流の記録を提出する。

(2) 全体研修会

- ①授業研究を中心に全教員で意見交流を行い、教師としての資質を高める。
- ②指導案（授業デザイン）を作成する。（指導案作りに力を入れすぎない。）
- ③各学年1回は、授業研究を行うことを原則とする。
*参考 ・ H23年度 3年社会 2年数学 1年英語
- ④外部講師として、昨年度に続き、佐藤雅彰氏または藤田修一氏を3回招く。
- ⑤全体研修会では、授業者が所属する学年が運営及び記録を担当する。

(3) Q Uの実施

- ① 5月中頃と10月頃にQ Uを実施する。
- ② 5月のQ U実施後に、講師を招き、分析についての研修を計画する。
- ③ 分析結果を元に、定期的にエクササイズ等を実施していく。

(4) 漢字・計算・スペリングコンテストの実施

(5) 学力アップ週間

(6) 家庭学習への取り組み